

【地域連携】 23年度指定校 ④県立東金特別支援学校

【操法訓練の様子を見学】



・北之幸谷区長寿会と旭市仮設住宅シスターズ&ボーイズと高等部との交流(北之幸谷区公民館)

シスターズ&ボーイズは軍手人形劇「仮設住宅の暮らし」を発表

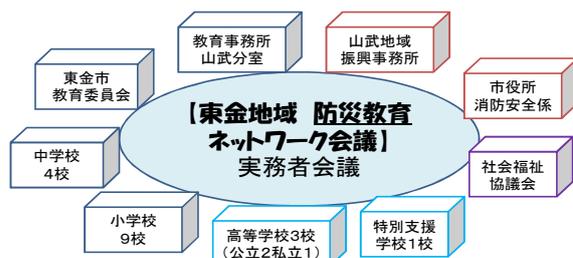
(3) ネットワーク会議を通して



「防災ユニバーサルねっと」の構築に向けて

①東金地域防災教育ネットワーク会議(小・中・高・特別支援学校及び行政、福祉等の関係機関)

「防災ユニバーサルねっと」の教育分野の地盤固め



各関係機関の防災担当者が集まり情報交換
地域の防災教育のレベルアップを図る

②災害時要援護者ネットワーク会議

「災害時要援護者の避難を考える講演会とグループワークを実施」

26団体 57名参加

幼稚園 大学(福祉) 特別支援学校

市役所(総務課 福祉課)

広域行政 広域の保健所

社会福祉協議会

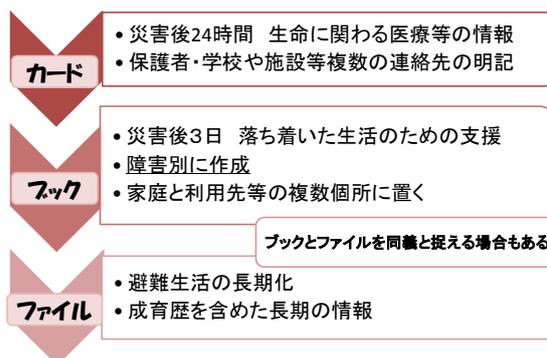
各障害者団体(自閉症 身体障害者

精神障害者など) 親の会

視覚障害者本人 など

【ヘルプカードの推進に向けて】

ヘルプカード等 時系列 優先順位



【認知症の人と家族の会の方の感想】

「障害者の家族会の方とお話する中で、分野や介護の内容は違うけれども、考える視点や悩みはとても似ている。他の分野の方と話せることで発見ができた。ありがとうございました。」「何かを決める。何かを作るといふ明確な形でなく、話をするテーブルを作れたことが大きな収穫ですね。」



6 成果と今後の課題

(1) 成果

大切な「いのち」を守るために、教師の安全教育確認研修を生徒が登校する前の4月3日に行った。



火災、津波想定避難訓練後に頭を守ることの実態調査を行い、実践を振り返る中で、防災頭巾ではなくヘルメットの方が有効であることが指摘され、車椅子にはヘルメットが備え付けられるようになった。防災の専門家の意見からもヘルメットの有効性は指摘されているが、実践の反省から職員の主体的な取り組みとしてヘルメットを備えることになったことは、防災教育の大きな成果である。

東日本大震災発生時、児童生徒は下校途中であった。通学途中の災害時の避難場所、土日や長期休業中に災害が起こった時の安否確認方法について、災害時情報カードの作成を保護者に依頼した。家庭における防災教育のきっかけになった。また、自主通学の生徒を対象に、災害時のコミュニケーションをテーマにして、自主通学生徒集会を継続して行っている。学年縦割りで通学方法別に小グループに分かれ、対応について考える。「大津波警報が出た！どこに逃げる？」という質問に、多くのグループは「3階に避難する」と答えたが、あるグループは、「遠くに見える陸橋の上に逃げようと思った」と答えた。グ

ループで話し合いをする際に、自分の意見をもつこと、他者の意見を聞くこと、それらから最善を見つけ判断して行動することを確認している。「電車が遅れています」「〇〇君が、おなかが痛いと言ってトイレに行きました。どうしたらよいですか？」学校や教師に連絡する習慣ができてきた。

児童生徒会が主催となって行っている全校集会に長寿会を招いて、防災をテーマとした地域との交流を行った。全校集会は毎回、小学部と中学部、中学部と高等部というように姉妹学級を組んで交流をしている。姉妹学級グループに長寿会の方を加え、避難グッズを校内に探しに行く。小学部と高等部が手をつなぎ、長寿会の方と本校の児童生徒が手をつなぐ。緊急地震速報が流れると、廊下や階段にいたグループは、その場にしゃがんで頭を守る。高等部の生徒が小学部の生徒の頭を押さえながら自分の頭も守ろうとする姿があった。また、教室にいたグループは机の下にもぐる。中学部の生徒が自分の頭を押さえながら、隣の机の椅子を出して、長寿会の方を招き入れていた。防災をテーマとした地域との交流から、助け合う共助の姿を見ることができた。

高等部生徒会の代表生徒2名と東北の学校を訪問してきた。復興に向けて大変な中、どの学校も快く引き受けていただいた。そして、どの学校も明るく元気に活動していて、逆に元気をいただいた。岩手県の宮古恵風支援学校では「がんばっぺす！」宮城県の石巻支援学校では「とにかく にげっぺ！」を広めてほしいと話があった。その言葉を二人の生徒たちは、発表の場で必ず紹介している。「今からぼくたちにできることはありますか？」という質問に答えていただいた。「来ていただいたのでうれしい、応援してください

い！」「自分たちの学校のことを思い出して、考えてみてください！（寒い時期はロッカーに長袖を置いておくことなど防災について見直してください）」

旭市の仮設住宅訪問をきっかけに、仮設住宅のシスターズ&ボーイズが来ることになった。シスターズは軍手人形劇「仮設住宅の暮らし」を発表する。発表の場所は、地域の公民館。そこでは地域の長寿会が踊りの披露をする。踊りの道具は大きく、運び出すことが大変で発表の機会が少なかった。公民館を使うことで、踊りの発表の場を作ることができた。そこに本校の高等部3年生も加わって、歌やダンスの発表と、総合的な学習の時間で取り組んだ防災劇を紹介した。さまざまな思いをつなぐことができた。以下は、旭市の訪問を終えての生徒の感想である。「仮設住宅は、部屋は7畳半で予想よりちょっと広がったけど、冬はすごく寒いし、夏になれば虫や蛙が入ってくる話を聞いて、暮らすのに大変だなと思いました」「飯岡中学校では、校舎の壁に津波の跡があり腰ぐらいあって本当にビックリしました。僕は、これらを見て聞いて本当の地震・津波の怖さや恐ろしさを知りました」

「あいさつ」はキャリア教育の視点からも、道徳の視点からも、日常生活の指導やコミュニケーションの視点からも支援や指導ができる。それに加え、「あいさつ」は不審者対応などの防犯にもつながる。そういった視点で学校教育を見直してみると、防災や安全教育につながるものが、そこにも、ここにも見つかる。そこに地域の資源や特性を重ねてみると、地域との連携を含めた防災教育が見えてくる。

(2) 今後の課題

「できたこと」「できていないこと」をアセスメントし直して明確にする。

①見直すにあたって

○優先順位

○見直す時期・具現化できるまでの時間の目安の設定（いつ・いつまでに）

○組織体制（だれが）

②見直す内容

【地質・地形】海まで8km・海拔8m沼地の埋め立て地であり過去液状化

【地域】所在地の北之幸谷区そして学区の二市四町

【建物・敷地】耐震化・老朽化 寄宿舎 給食（米の備蓄） 遊具

【児童・生徒】知的障害を中心に自閉症、肢体不自由、聴覚障害など、他の障害を併せ持つ多様な児童生徒

【家庭】災害時情報カードの活用（休日や長期休業）メール配信サービスの加入率

【教職員】非常勤職員数（4月当初に安全確認研修へ）寄宿舎の夜間体制（近隣居住職員の協力確認）

【県・市の施策】ネットワーク会議 防災セルフチェックの具体的な活用方法（PDCA）

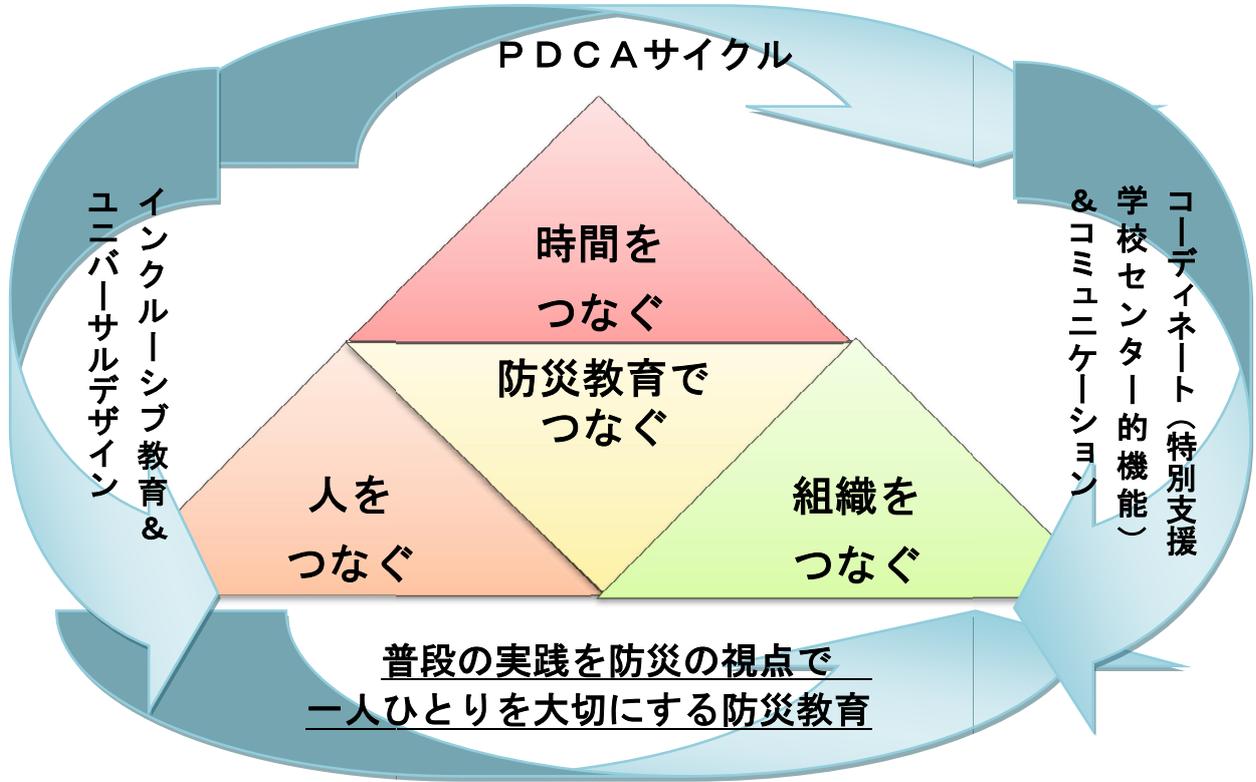
【通学・校外】スクールバス 自主通学 校外学習計画案に災害対応も

【通信・連絡手段・マニュアル】見直しの時期と分掌の位置付け

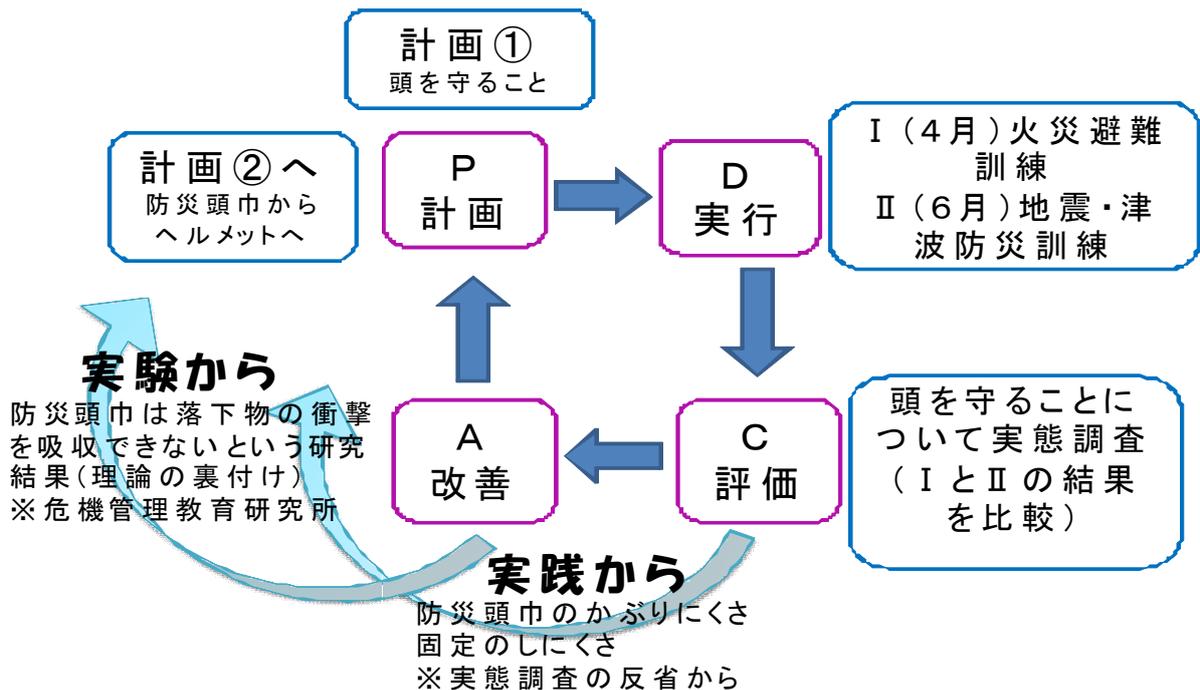
【備蓄】飲料・食料、電源、医療、寒さ 地域の避難場所（一次避難場所） 卒業生や災害時要援護者の支援を含めた三次開設避難所（福祉避難所）

【防災教育を取り組むにあたって】

※授業や行事を防災教育でつなぎ、普段実践していることを防災という視点で見直す。



【頭を守ること実態調査におけるPDCA】



【地域連携】 23年度指定校 ④県立東金特別支援学校

【初期対応から二次対応判断までの災害対応マニュアル】

※ポイント 時系列と優先順位から作成

